



Sacra di San Michele

CULMINE VERTIGINOSAMENTE SANTO

C. Rebora





サクラ・ディ・サン・ミケーレは、スーサ渓谷の入り口付近の、海拔 962 m のピルキリアーノ山のゴツゴツとした岩の頂上にあり、古くからイタリアと北西ヨーロッパをつないできたルートのひとつに位置しています。

このピルキリアーノ山は、地理的にプーリアのモンテ・サントアンジェロの聖域とノルマンディー地方のモン・サン・ミシエルの聖域の中間地点に位置しており、大天使サン・ミケーレゆかりの巡礼地のひとつです。

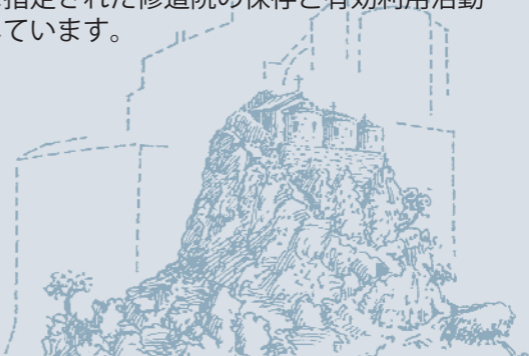


歴史

フランスの裕福な贖罪者であるモンボワッシエのウーゴの寄付によって、983年から987年に建設されたこの修道院は、すでに存在していた、大天使サン・ミケーレに捧げられた3つの小さな礼拝堂の上に建てられます。

もともとはベネディクト会修道院でしたが、12世紀頃には、ヨーロッパ全土から訪れる貴族や巡礼者を受け入れる精神的かつ文化的場所になります。政治経済的および運営上の理由から、14世紀から徐々に衰退し始め、1622年のベネディクト修道会の廃止をきっかけに勢いを失います。それからの2世紀の間、この修道院は見捨てられ、略奪が繰り返された結果、部分的に荒廃します。救いの手が差し伸べられたのは、1836年です。王カルロ・アルベルト・ディ・サヴォイアが、偉大なる司祭哲学者アントニオ・ロズミーニ(1798年ロヴェレート生 - 1866年ストレーサ没)によって創立された修道会の修道院として復活させます。

1866年、この建物はイタリア政府の所有となります。現在もなお、修道院の管理はロズミニアーニ修道士会が行っており、1994年にピエモンテ州の象徴に指定された修道院の保存と有効利用活動を推進しています。



土台と入口

サクラ・ディ・サン・ミケーレは、ヨーロッパにある最大のロマネスク様式の宗教建築物のひとつで、何世紀にもわたる開発によって改造や拡張が繰り返されてきました。12世紀前半に建てられた荘厳なる土台(高さ26メートル)は、緑石によって教会東部の3つの後陣を支えています。入口の門は、その側柱の上部に彫られたライオンによって守られており、教会へと続く肉体的および精神的な歩みの始まりを表しています。



死者の階段

ロマネスク建築様式の特徴が色濃く残る空間です。角柱を中心に、その周囲を死者の階段が回り込むように設計されています。大窓下のフレスコ画の痕跡からも分かるように、修道士や修道院の後援者が埋葬された場所であることからこの名がつけられています。

ふたつの凹みがある右側の壁は、古くからこの場所にあった3つの礼拝堂を支えるために建てられたもので、後に建物に組み込まれ、地下空間となりました。



星座の扉

急な死者の階段の頂上にあるこの扉口は、この修道院で最も芸術性に優れた作品となっています。建築家である彫刻家であったニコラオとその協力者によって12世紀初頭に作られました。右柱には上に向かって黄道十二星座が、左柱にはその他の十六星座が彫られています。

両柱の内側には、花や動物、小さな人の顔を包み込むブドウの枝が装飾されており、創造の調和を表現しています。柱頭には、罪の象徴である聖書に登場する人物（カインとアベル、サムソンとデリラ）と中世を象徴する人物（ヘビに授乳する女性、人魚、鷹）が描かれています。



フライング・バットレス

星座の扉を通ると、4本のネオゴシック様式のフライング・バットレスが広がっています。これは、建築家アルフレード・デ・アンドラーデの指揮で、19世紀の終わりに始まった教会の大規模な補強工事によって作られました。荘厳な緑石の階段は教会の優雅なロマネスク様式の入口扉に繋がっています。この扉には、花モチーフが入った柱頭付きの柱が使われており、右側は頭巾をかぶった修道士の頭で、左側は青年の頭(現在は紛失)で装飾された雨よけが付いています。クルミ材を使った扉は、1826年にカルロ・フェリーチェ・ディ・サヴォイアの寄付によるもので、大天使サン・ミケーレの武器と人間の顔を持つヘビの姿をした悪魔が描かれています。



教会

その一部 (聖堂内陣) は土台の上に、その他の分部分は山の上に建てられており、左側の最初の径間の石の下にその頂上を見ることができます。ふたつの時代に建てられ、何世紀にもわたって修復されてきました。現在の姿は、1937年に完成した中央の交差ヴォールトの再建という、特に大規模な修復工事によるものです。3つの身廊を分ける大きな柱、そして装飾としての139の柱頭からは、1160年から1230年ごろまでという建設年月の長さを、ロマネスク様式からゴシック様式への変化から読み取ることができます。後陣の大窓を囲む彫刻は初期のものであり、聖母マリア、大天使ガブリエルと4人の預言者が刻まれており、壁を飾るフレスコ画は主に16世紀初頭のものとなっています。「古い内陣」と呼ばれる最も古い建物の一部である教会の奥には、16世紀と17世紀の重要な作品が残されています。その中でも特に異彩を放つのが、1520年のデフェンデンテ・フェラーリによるトリプティクです。教会の周囲に配置された石棺には、1836年にカルロ・アルベルト王の意志によりトリノ大聖堂から移されたサヴォイア家の一部の遺体が収められています。



遺跡とベッラルダの塔

60人以上の修道士を収容するため、12世紀から14世紀の間に建てられた大きな修道院でしたが、修道士たちが過ごした環境を見極めることが困難なほどに荒廃が進み、現在は印象的な遺跡のみが残っています。崩壊(地震や火災、略奪)後も、ベッラルダの塔の角の構造の一部を見ることができます。伝説によると、傭兵から逃れるため、美しい少女がこの修道院の塔から身を投じ、天使のとりなしによって、無傷で山の麓にたどり着いたとされており、虚栄心とお金のため、もう一度飛ぼうと試みますが、下の岩に落下したと言われていました。

最近行われた補強工事の際、修道院のこの部分で、かつて食料を保管するために使用されていた氷箱と雨水用の貯水槽が復元されています。



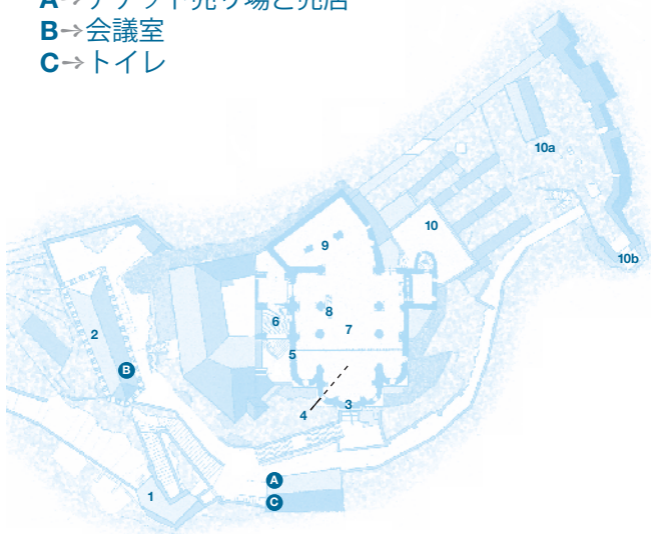
修道士の墓地

修道院から 200 メートルの場所には、エルサレムの聖墳墓に捧げられた八角形のロマネスク様式の建物の遺跡 (11 世紀後半)

A→チケット売り場と売店

B→会議室

C→トイレ



1→鉄門 修道院への入口

2→宿泊施設 巡礼者を迎えるために作られた建物 (11 世紀から 12 世紀) で、現在は会議室として使用されています

- 3→**土台と入口** 教会の後陣の土台部分で、その頂上にはロτζャ・デル・ヴィレッティがそびえています
- 4→**死者の階段** 入口から 星座の扉 へと続く急な階段
- 5→**星座の扉** 彫刻家ニコラオと地元の職人による作品 (12 世紀初頭)
- 6→**教会への坂道** 19 世紀の終わりにアルフレード・デ・アンドラーデが設計した 4 本のフライング・バットレスが掛かっている階段で、教会入口の扉へと続いています (12 世紀前半)
- 7→**教会** 3 本の身廊では、ロマネスク様式 (後陣) からゴシック様式 (西部の径間) を見ることができます。12 世紀から 17 世紀の作品が保存されています
- 8→**礼拝堂** サン・ミケーレ信仰の核となる教会の下にあり、19世紀にサヴォイア家の霊安堂となった礼拝堂 (見学不可)
- 9→**古い内陣** 11 世紀初頭に作られた空間で、トリプティク や デフェンデンテ・フェラーリによる即位聖母の祭壇画 (16 世紀初頭) をはじめとするフレスコ画や作品が展示されています
- 10→**テラス** 修道士の扉 (13 世紀) からは 新修道院の遺跡(12 世紀から 14 世紀) (10a)、ベッラルダの塔 (10b)、そしてその背後には未完の鐘楼 (13 世紀) を望むことができます。



PADRI ROSMINIANI
SACRA DI SAN MICHELE

Sacra di San Michele
Padri Rosminiani
10057 S. Ambrogio (TO) - Tel. +39 011.939130
info@sacradisanmichele.com
www.sacradisanmichele.com

